

巻頭言

はじめに

東京大学大学院教育学研究科・学校教育高度化センターでは、発足以来、学校教育高度化推進に関する研究プロジェクトを実施してきましたが、平成 22, 23 年度の 2 年間に限らず、「学校における新たなカリキュラムの形成: 次の学習指導要領改訂を展望して」をテーマとした公募型研究プロジェクトを行うことにしました。

カリキュラムをテーマとすることによって決めたのは、前身の学校臨床総合教育研究センターが、「いじめ」「学力低下」「学習環境改善」など学校現場の問題を取り上げたことを踏まえ、また本センターになってからの過去 2 年間「学校教育の質の向上」というテーマで行なってきた諸研究を継承する意図があります。さらに 2011 年度から全面的に新課程に移行する学習指導要領に対して、研究センターとしては、その改訂の意図と現場への影響を把握しつつも、より長期的あるいは国際的な視点に立って学校教育の現状を評価することの重要性を意識しています。

教育学研究科の教員や大学院生のグループがそれぞれのアプローチから研究フロンティアを見通し、この研究プロジェクトの担い手となることを期待して研究科内で公募しました。その際に研究自体のオリジナリティよりもそれぞれの研究テーマの内外における最前線を確認し、どのような研究が可能であるのかを具体的に提案し一部試行するような予備調査的研究を行うことをお願いしてあります。こうして教員グループ 2 件、大学院生グループ 5 件を採択し、22 年 6 月から 23 年 2 月までの 9 ヶ月間研究を行い、途中、2 回の中間報告を経て提出されたものを集めたのが以下の研究報告です。

取り組まれたテーマは、「メタ学習」「言語力」「シティズンシップ教育」「予防的心理教育」「キャリア教育」「リテラシー形成」と多様ですが、当初の意図に沿った意欲的な研究が行われたと判断しています。本センターは、これを受けて来年度には本格的な研究の実施に移れるように準備を始めています。これらの研究報告について忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いです。

平成 23 年 3 月
学校教育高度化センター長 根本彰